

12月の生活表

2022年 12月

聖マリア幼稚園

年主題：つながって ～今、わたしを生きる～

月主題：喜びあふれて

・保育日数（20日）

月目標：<3歳>

- ・イエス様が一人ひとりのためにお生まれになってくださったこと知り、喜ぶ。
- ・賛美や聖書のみことば、ページェント、祝会などを通して、イエス様のお誕生の意味を思い、友だちや家族と一緒に喜び分かち合う。
- ・寒さの中でも戸外で体を動かし、友だちや保育者と遊ぶことを喜ぶ。

（保）クリスマスの意味を知り、共に考え工夫して環境や雰囲気を作っていく。

<4・5歳児>

- ・イエス様が私たちのためにお生まれくださったことを喜びあう。
- ・クリスマスの喜びや感謝を周りの人たちと分かち合うことで恵みが増していく体験を重ねる。・困っている人、悲しんでいる人に心に向け、祈りながら自分たちにできることを考えていく。・友だち、教職員、家族と「共に」礼拝する。

（保）11月までの生活や遊びを大事にしながらアドヴェントを共に喜びを持って過ごす。

今年の長く続く紅葉はなんて美しいのでしょうか。第八波を気にしつつもこの美しさに人間の心は嬉しく弾み、心踊らせているのでしょうか。神様の業に感謝して愛でたいものです。

さて、無事に11月の感謝祭を終え、私たちの周りの人や物そして「命」のバトンに感謝いたしました。いよいよ12月。神様のお独り子のお誕生をお祝いするクリスマスがやって参ります。私たちが神さまにお捧げする最大の感謝です。緑組のメインキャストも、子どもたち各々の優しい思いを越えてお役が決まり練習開始です。と同時にアドヴェントに入り、子どもたちのカレンダーには綺麗に心の色が塗られているのでしょうか。先日50年前の卒園生とのひと時を持ちました。園長が入職してすぐのまだうら若い時に担任をしていた子どもたち（54歳の面々ですが）です。幼稚園のこの年齢での繋がりは、一番古いかもしれません。今でこそSNSで繋がる時代ですが、幹事役が彼・彼女たちをSNSに招待して繋がり開始。これで直ぐにいつでも繋がれますね。勿論入れてもらいました。今回話題となったのは、今の時なのでクリスマスページェントのこと。AとBの二クラスがあり、年長だけで50人くらいの園児だったのでしょうか。でもその中から、誰がメインキャストになっていたのか。自分はこの役をしたかったのに。こんな歌やったなあ。保育後も残って練習した。と各々の記憶を話すうちに、細部に渡ってまで思い出されたのです。「子どもの声にあわせて音の高さを変えておくれやすと言われて大変やったんよ」なんて、話していたのです。でも、卒園生にとり帰る場は「マリア」・繋がっている根源は「マリア」で、なぜにこんなにずっと続いて仲良しなんだろうと。勿論連絡の取れない人や仕事上でも転換期に差し掛かっている人も多く、集まれる人のみではあっても少数でも続けることが大切なのですね。今の子どもたちの50年後は予想だにできませんが、私たちの守るべきものをしかと考えねばならないと改めて気付かされた次第です。マリア幼稚園に繋がる全ての人の為にお導きをお祈りしましょう。

《チャプレンコーナー》

月聖句：さあ、ベツレヘムへ行こう。（ルカによる福音書2：15）

貧しい馬小屋で、家畜たちに囲まれながら、真ん中に飼い葉おけのイエス様、両側にマリア様とヨセフ様…。静けさと美しさを感じる光景です。あまりに良く見かけるので、何も違和感を感じないのですが、ふと思いを馳せると、いくつか疑問が出てきます。「なぜ馬小屋なんだろう？」私たちの周りに、馬小屋で出産した人が居るでしょうか？まず居ないと思います。どれほど掃除しても、家畜小屋が清潔な訳はなく、そのような場所での出産とは、通常考えられません。イエス様が馬小屋で生まれたのは、旅の途中で産気づいたからです。ちょうどその時、宿屋に空き部屋がなかったので、致し方なく馬小屋で出産したのです。…次の疑問が出てきます。なぜ臨月の時に、旅に出たのでしょうか。現在でも遠出は控えることが多いでしょう。ましてや、移動手段と言えば歩くか、馬や口バに乗るしかなかった時代に、なぜ旅に出たのでしょうか。この理由は、聖書に書かれています。「そのころ、皇帝から全領土の住民に登録をせよとの勅令が出た。」ローマ政府からの命令によって、強制的に旅に出させられたのです。臨月の人でさえ旅を強いられたのですから、老人、子ども、病人、障害者等々、情け容赦なく移動させられていたのでしょう。ヨセフさんとマリアさんは、現代で言うところの「難民」と似た状況に置かれていたのです。大変厳しく辛い背景が、クリスマスにはあります。そのような中で、天使によって温かい喜びのメッセージがもたらされたのが、クリスマスです。天使からメッセージを聞いた羊飼いは言いました。「さあ、ベツレヘムへ行こう！」彼らの旅は、喜びと希望に満ちた、自主的な旅でした。誰かに強いられるのではなく、自分で選び取る自由と希望の旅が、神様によって与えられたのです。

クリスマスおめでとう！喜びの旅の始まりです。

おたんじょうび おめでとうございます

<生活指導>

☆自然の移り変わりに目を留めてみましょう

- ・風の冷たさ、音、樹々の変化、山の色の変化、登降園途中の様々な発見を大切に、冬の訪れを感じてみましょう。

☆自分で出来る事は自分でやってみましょう。

- ・上着を着る機会が多くなります。ジャンパーのボタンやファスナーが自分で出来るように練習してみましょう。出来ない時にはお手伝いをしてあげましょう。
- ・『○○して下さい。』とのお願いのこぼれを添えて。
- ・自分の持ち物は自分で整理整頓しましょう。脱いだあとの服の始末（たたむ・フックに掛ける・ハンガーにかける等）、鞆を一定の場所へ・・・幼稚園へは上着を着たまま保育室に上がらせて下さい。たたむ練習をしています。

☆健康管理に留意しましょう。

- ・インフルエンザに備え、帰宅後の手洗いをしっかりと洗いましょう。
- ・暖房器具が活躍する季節になりました。換気と乾燥に気をつけましょう。
- ・子ども達の肌の感覚（汗をかく、冷たい風に当たる）を養いましょう。

☆家の中で、お手伝いをさせましょう。

- ・年末には、子ども達も家族の一員として子どもが出来る範囲のお手伝いをして、責任が果たせるように話し合ってみましょう。（雑巾がけ＝絞る、たたむ、掃く＝クリーナーor帚と塵取りの使い方＝物をのけて掃除する、トイレ掃除＝綺麗に使う 等々）
- ・お手伝いの様々な内容により、その方法や要する時間等、年齢や場面に合った臨機応変さも含めてのお手伝いを考えてみましょう。
- ・楽しいお手伝いになる事も大切です。そのためには、大人からの感謝を伝え、時にはお駄賃（ご褒美）も良いのかもしれないね。

☆年末年始には、隣近所の方としっかりご挨拶が交わせるようになりましょう。

☆年賀状を出し合ってみましょう。

- ・年賀を通して、その人の事を思い、また年齢（3～5歳）や個人（個々の園児）に応じ、年号・干支（子年）・字・数字・電話番号・自分の住所等に興味関心を持つ機会となりますように。（自分が住んでいる地名、祖父母の姓名は？）

☆お年玉について話し合みましょう。

- ・お金の種類・価値・使い方等について、子ども達に知らせてみましょう。

☆冬休みにもお祈りを忘れずに

- ・年末には、1年間の神様のお守りに感謝し、年始には1年間のお導きお守りをお願いしましょう。（家族の為、お友だちの為、社会情勢や自然事象について、様々な事を・・・）

<クラス便り：各担任より>

<花組>

真如堂の美しい紅葉に瞳を輝かせて落ち葉拾いに夢中になるその姿は、何とも眩しくて可愛らしくて...美しい風景と共に良い光景をしっかりと胸に焼き付けました。秋が深まったと思ったらもうアドヴェントです。街はもうクリスマス...2学期も残すところ三週間となりました。夏休みが明けて新しいお友だちを迎えて、運動会という大きな行事に一生懸命に取り組み。感謝祭の嬉しい「ありがとう」で溢れる季節にまた新しいお友だちを迎えて花組は10名になりました。今度はその10名でマリアの誇るべき『クリスマスページェント』に向かって心を一つに取り組んでいきます。残念ながら、一人のお友だちは練習の途中で本番を迎えられずにドイツに帰国されますが、そのお友だちの分までしっかりと花組さんは花組さんに与えられた大切なお役に真剣に取り組んでゆきたいと思います。

先日、クリスマスへむけてアドヴェントカレンダーと献金箱をお持ち帰りいただきました。献金箱はご自分たちで制作したもので、みんなとても嬉しそうに出来上がりを眺めていました。そして、その献金箱について、常日頃、金曜礼拝でお捧げしている献金についても、子どもたちにお話をしました。『お金ってどこにあるの?』『お家にある〜!』『誰がご用意してくれはるの?』『お母さん!』『お父さん!』と、みんな自信を持って答えてくれました。『では、お家にあるお金はだれがくれはったんかな?』と問うと、「はい!銀行です!」確かに、銀行のATMからお金が出てきます。でも、銀行は欲しいだけお金をもらえる場所ではないわけで...そこで、その一週間前に勤労感謝の日について子どもたちとお父さんやお母さんのお仕事についてお話していたので、お仕事をして「お給料」をいただいてそのお金でみんなのご飯やお洋服が買って貰えて...というお話を噛み砕きゆっくりお話してゆきました。みんな真剣です。みんなはとても幸せだということ、「お腹が空いたな〜」という感覚は三食しっかり満たされ、「暑い・寒い」「身体の成長」に適した衣服や環境が整っていて、毎日幼稚園に通わせていただいているという幸せ...子どもたちにとって当たり前の日常です。しかし、ニュースで流れる戦争の映像、いつもお礼拝でお祈りしているから戦争が世界のどこかで実際にあることは知っていますが、その認識や映像に映りきれない沢山の人の日常は決して恵まれたものではなく、その中には沢山の子どもたちもいるということ。また遠い国の出来事だけでなく日本でも台風や地震の災害で苦しんだり悲しんだりしている人々もいるということ。私たちに出来る愛のご用は一人一人とても小さいけれど、みんなの愛を集めればどうなるんだろう?と、すると「大きくなる!」「沢山になる!」

と答えてくれました。クリスマスの献金箱はそんな愛のご用を、アドヴェントカレンダーと共に嬉しいクリスマスを迎えられるように。私たちの愛を集めて、チャプレン先生や園長先生がどんな愛のご用に使おうかな？と考えるくださり、世界で、日本で苦しみや悲しみの中にある人々の元へ届けてくださるのだよ、と…。

「神はその独り子を賜ったほどに、この世を愛してくださった」イエス様が私たち一人ひとりのためにお生まれくださったことを心に覚えて、「喜びにあふれて」クリスマスのご準備をしてゆき、みんなで愛の光を輝かせて嬉しいクリスマスをお迎えしたいと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様には沢山のご理解とご協力を賜り、大切なお子様をマリアへとお送りいただきましたこと心より御礼申し上げます。

そして、いつも私たちをお守りお導きくださる神様に感謝し、皆様の上に神様の豊かな御恵みと御導きがありますことを心よりお祈り申し上げます。

Merry Christmas and Happy New Year

<赤組>

美しい京都の紅葉。そして地面には赤、黄、緑色などの絨毯が敷かれているような何とも美しい樹と地面のコントラスト。本当に綺麗な光景です。それに吸い寄せられるように、週末には世界各国から観光客が秋を愛でにやってきています。先週末は紅葉のピークで色とりどりに葉を染め、人々を温かく包み込んでいました。子どもたちも同じように秋を感じています。先日の降園後、岡崎道通りで見つけた赤茶色と黄色のグラデーションの葉を見つけてすぐに「綺麗だったから」と届けに戻って来てくれ、その気持ちに嬉しく思いました。こうして季節の変化に目を向け、感じ、その喜びや楽しみ方を思い起こしてくれるのは子どもたちです。子どもたちと共に過ごしているからこそ、そこに落ちている落ち葉が、団栗が宝物になったりするのですね。子どもたちの感性を大事にしながら私も共に感じながら過ごし、その四季折々のお恵みに心から感謝したいと思います。

12月には、聖マリア幼稚園の大切な行事で、子どもたちが心を一つにして一緒に作り上げる「クリスマスページェント」が行われます。その準備が先週から始まりました。緑組さんのキャストを決める話し合いに赤組さんも参加し、いつもとは違う緑組さんの真剣な表情、それぞれの思いを一緒に見聞きしました。いつも面白いことを言って笑わせてくれる、困った時は助けてくれる、自分に出来ないことが出来るなど、、、そうしていつも緑組さんと過ごす中で「緑組さんってかっこいいな」「私もできるようにになりたいな」と憧れの気持ちが芽生え出している赤組さん。こ

の素敵な縦の関係を大切に、ページェントの練習を通してまた緑組さんの真剣な姿を目に焼き付けながら良いところをどんどん真似て緑組になる準備もして行って欲しいと思います。

その前に、赤組さんは赤組さんの時にしかできない大事なお役の「聖歌隊」を頑張ります。ページェントの一番初めに赤組聖歌隊が入堂し、お礼拝堂の入り口からチャンセルまで歩いて行きます。そして5曲を2人ずつのペアに分かれて、物語の場面の間で登場し、歌でその場面を伝える大切なお役です。入堂では「みぎ・トン、ひだり・トン」（オルガンのテンポに合わせながら右足を出して、合わせる、左足を出して合わせる、）の歩き方です。歌いながら、いつもと違って気をつけて考えながら歩くということは子どもたちにとって困惑して難しいことだと思いますが、先輩緑組さんに隣について歩いて教えてもらいながら丁寧に歩き、今年の聖歌隊の赤組さんへと受け継がれました。また、担当の曲を決める時には、「どの曲になるのかなー!？」と、どの曲も好きな赤組さんは発表を楽しみに待ち、真剣に歌うが姿がありました。自分たちの担う聖歌隊に前向きな気持ちで取り組もうとし、綺麗な声をもっている5人の赤組さんなら、きっと素敵な歌声をお礼拝堂に響かせてくれるのではないかと思います。クリスマスページェントを通して、互いに喜びを分かち合い、そして、イエス様のお誕生をみんなの愛の光でいっぱい満たす事が出来ますように・・・子どもたちの着る聖歌隊のコッターのように真っ白な心で、愛の色の赤いスカートを履いてクリスマスの日を迎えたいと思います。

2学期最後の1ヶ月となりました。2022年の締めくくりの月、改めて子どもたちと1日1日を大切に、最後まで嬉しい、楽しい幼稚園となるようにしていきたいと思います。皆様にとって素敵なクリスマスになりますように。

<緑組>

“なんでマリア幼稚園って名前になったん？”と小学生のお兄ちゃんに唐突に聞かれ、なぜ「マリア（教会/幼稚園）」となったのか...正直、そこに疑問をもつことがなかったことに気づかされました。思えば、一人一人に名前があるように、この教会/幼稚園にその名が付いたのには由来があるのだと思うのですが...さかのぼることおよそ120年前に、この地に教会が建立された、そのときの宣教師の方々の想いがあったのだと...説明するしかありませんでした。ただ、この「聖マリア幼稚園」が「東山幼稚園」と名称を変えた数年がありました。第2次世界大戦下、敵国の文化

の使用を禁止されたからと聞きます。そのことを、話すと、その場にいた幼稚園の子が「戦争で、なんで名前が変わるのか？」と尋ねました。幼稚園の子どもに分かるようにと、戦争は相手を許すことができず、暴力で支配しようとするのだと、易しい言葉で説明しました。すると、小学生のお兄ちゃんは「戦争は、ケンカちゃうで、殺し合いやで」と言い直してくれました。本当は、その通りなのです。今年の2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻は、平和只中にいる私たちには衝撃的に感じられ、連日の報道に恐怖と危機を覚えました。その頃から、子どもたちが「早く、ウクライナとロシアの戦争がおさまりますように」と自分たちの言葉でお祈りするようになりました。一週間の終わり、子どもたちに「お祈りしたいことはありますか？」と投げかけます。すると必ず、この戦争のこと、コロナウイルスのこと、お休みの日もお守りくださいということ、欠席のお友達のことをお祈りする子どもたちがいます。先日オンラインで参加した研修会で、ウクライナ出身の楽器（バンドゥーラ）奏者の方が、日に日に日本での報道が少なくなっていることが残念だと述べられていました。季節が移り変わり、極寒の地で電気もガスもない中、ウクライナの人々が置かれた現状に絶句せざるをえません。第8波に突入したといわれる新型コロナウイルス。生まれた時からほとんどの大人がマスクをした中で育つ子どもたち、当たり前前に集い、当たり前前に顔を寄せ合い友達と分かち合う経験が削がれていく小中学生。誰かを何かを恨んでも、責めても、どうしようもない多くの不条理が、こんなにも身近に渦巻いていること。そして幼児期の子どもたちのすぐ隣に「平和」ではなく「戦争」の脅威があるという現状に、抗う術もないことに無情感さえ漂います。でも...どんなときも、誰にとっても「かみさま」という存在は私たちの身近にいてくださるということが、救いのように思います。今年デビュー50周年の松任谷由実さんの「やさしさに包まれたなら」の歌詞に「小さい頃は神様がいて 不思議に夢を叶えてくれた...毎日 愛を届けてくれた...」とあります。子どもは純粹無垢で、天真爛漫で好奇心の塊、ただただ「楽しい」ことが大好きで、無我夢中に遊ぶ...そんな子ども時代にだって不安や迷いがある。そんなときに（宗教に関係なく）心の中の「自分のかみさま」に話しかけることができたなら、その存在を認めることができれば、どんなに救われるでしょうか？例えばそれは、大好きなくまちゃんのぬいぐるみかもしれない。例えばそれは、目に見える確かなものとは限らない「宝物」なのかもしれません。そこに働く「信じる」という心の動きこそが、自分を守る、自分を信じる、自分を受け止める、自分が自分でい

ることの証明のように思うのです。

世の中はクリスマスに向けて煌びやかなイルミネーション。「あんな、お礼拝堂の入り口がなびかぴかになって綺麗になる」と子どもたち。クリスマスツリー（もみの木）を飾り、サンタクロースに「欲しいおもちゃ考えてるねん」と期待に胸を躍らせる。なんて素敵なことでしょう。なんて幸せことでしょう。コロナ禍と言われる毎日だからこそ、子どもたちには特に楽しさを、幸せを感じ取ってほしいと強く願います。そしてクリスマスは、神様がイエスさまの誕生を通して、苦しみ、悲しみの中から私たちを救い出そうと届けてくださった最大のプレゼントです。そのことに「ありがとう」と感謝し、頂いた平和を守ること、そのために、自分たちができることに目を向けていかねばと思います。子どものように、純粹に願えば...いつかきっとその奇跡は起こるに違いないと信じて...

2023年が、皆様にとって幸多き1年となりますように...!

Merry Christmas And Happy New Year!!!